

目的 最近若い女性の間で「香り」に対する関心が高まっており、日常的に使われるようになってきている。被服の種類は多様であり、香水もまた多様であって、被服と香水がどのように組み合わせられて使用されているか明らかでない。本研究では、まず、被服と香りに適合している組み合わせが存在するかどうかを測定し、つぎに適合している組み合わせの被服と香りのイメージの一致性を検討した。

方法 5種類の被服（振り袖、Gパン、ネグリジェ、スーツ、ロングドレス）の写真を被験者（女子短大生106名、1989年9月）に呈示し、5種類の香料（フローラル、フルーツ、グリーン、オリエンタル、シトラス）を1つずつ嗅ぎ、その香りの各被服への適合度を7段階尺度を用いて測定し、フリードマンの順位による2元配置分散分析を用いて検定した。さらに各被服、各香料を11対のSD尺度（7段階）を用いて測定し、被服と香料の同一評価用語間の相関係数の平均値を算出してイメージの一致度の指標として用いた。

結果 香料のフローラルと適合すると評価された上位2種の被服はロングドレス、スーツであり、フルーツはGパン、ロングドレス、グリーンはGパン、スーツ、オリエンタルはロングドレス、スーツ、シトラスはGパン、スーツがよくあうと評価された。振り袖、ネグリジェについてはこれらの香りとよくあうと判定されなかった。各香りによく適合すると判定された上位2種の被服のイメージとその香りのイメージはよく一致しており、互いにイメージの類似した香りと被服がよくあうと判定されていることがわかった。